

風土記の丘の花だより²⁶⁵

今、そしてこれから見られる植物 (2025年3月22日)

まさに三寒四温、春めいてきたと思ったら、また先日の雪やあられ、それに雷。でも、一雨毎に春に近づいていることは確かなようです。サクラの開花が待ち遠しいですね。



春と言えばまずこの花でしょう。オオイヌノフグリです。私はこの青い花が咲くと、暖かい春の訪れを実感します。もうすっかり日本の風土になじんでしまっていますが、ご承知のように古くにヨーロッパからやってきた外来植物です。もともと日本にあったイヌノフグリは見かけることが少なくなりましたが、これは市街地、里、山など、ほぼどこでも見る事ができます。それにしても「犬のふぐり」とは誰が名付けたのでしょうか。「ふぐり？」何のことか、みなさんすでにご存じですよ。



この白い花も春の訪れを感じさせてくれます。ハコベです。その中でも写真のようなハコベはコハコベと呼ばれます。また、少し大きめで茎まで緑色のハコベをミドリハコベとして区別しています。細長く白い花びらが10枚あるように見えますが、1枚の花びらがVの字に深く切れ込んでいるので、花びらは5枚なのです。ハコベはかつて「はこべら」とよばれ、春の七草の一つに数えられています。私は子どものころ、飼っていたニワトリによく与えていましたが、自分で食べたことはありません。



いい香りが漂っているので、開花に気づきました。ジンチョウゲの花です。この写真は柳川家の南側で撮りました。白い花びらのように見えるのは萼（がく）で、ジンチョウゲの花には花びらがありません。写真の花は萼の外側が紫色ですが、外側まで白い品種もあります。ジンチョウゲは室町時代ごろに中国から渡来したと言われている花木です。万葉植物園にはミツマタが咲いていますが、これと同じ仲間です。よく見ると、花の作りがとてもよく似ていますね。



名前に春が付く花シュンランが咲きました。去年の記録では「3月19日、万葉植物園で6輪開花」とあります。今年はウメの開花がかなり遅れ、アミガサユリもまだ咲いていませんが（3月19日現在）、シュンランは去年とほとんど同じ時期に開花しました。どうしてでしょう、不思議ですね。シュンランは野生ランなのに、それほど人気がないのか、掘り去られることもなく、風土記の丘にはたくさん株があります。嬉しいことです。

松下